

寛容・慈悲・対話

人間 主義の

池田大作
Daisaku Ikeda

フェリックス・ウンガーバーグ
Felix Unger

旗を

寛容・慈悲・対話

人間 主義の 旗を

池田 大作

Daisaku Ikeda

フェリックス・ウンガー

Felix Unger

東洋哲学研究所

人間主義の旗を——寛容・慈悲・対話

二〇〇七年(平成十九年)八月二十四日 第一刷発行

二〇〇七年(平成十九年)十二月十二日 第三刷発行

著者 池田大作

フェリックス・ウンガー

発行人 川田洋一

発行所 財団法人 東洋哲学研究所

〒192-0003

東京都八王子市丹木町一-二三六

電話 ○四二(六九一)六五九一

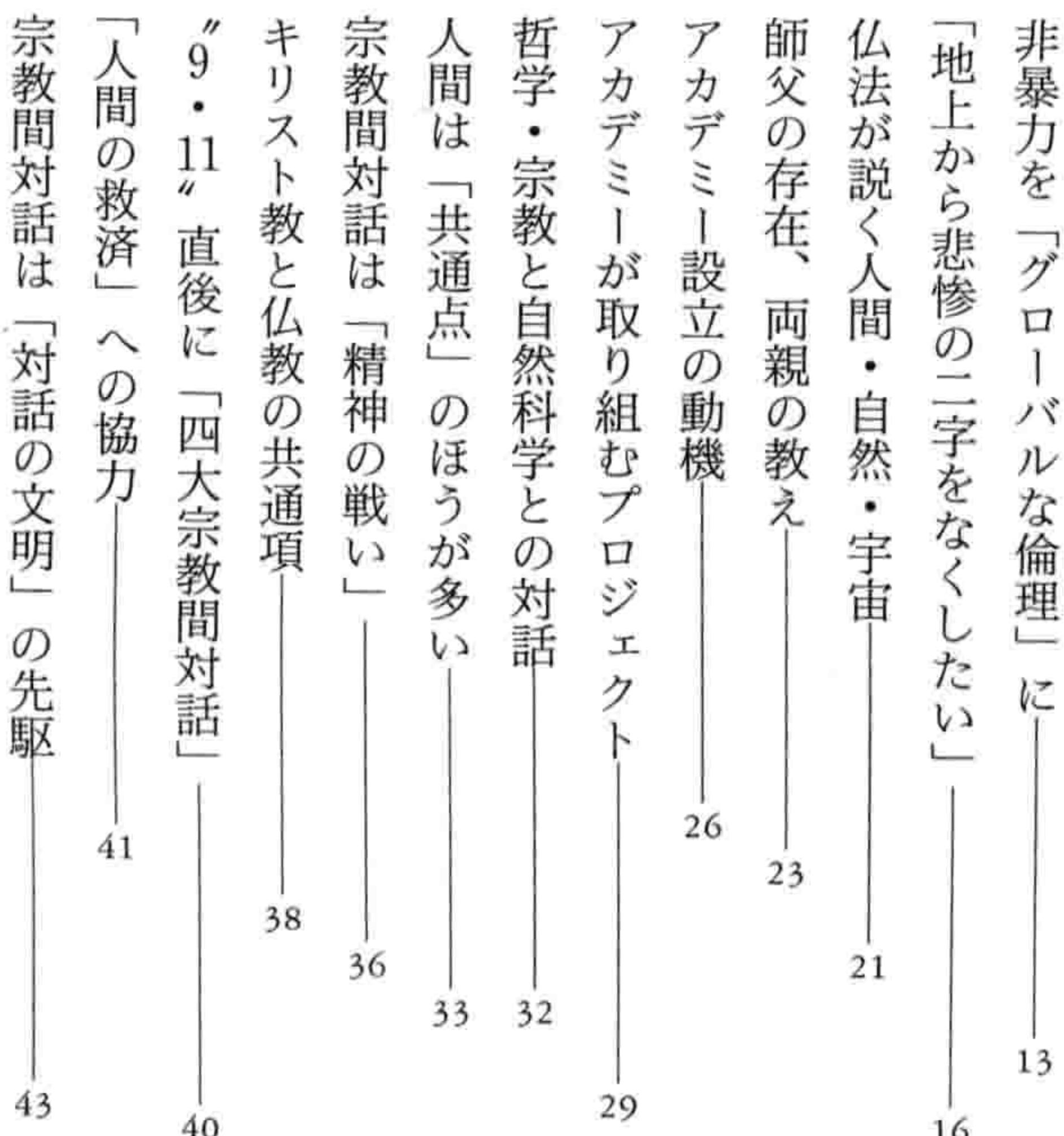
振替 ○○一三〇一七一二二三九四

印刷・製本 共同印刷株式会社

© Daisaku Ikeda and Felix Unger, Printed in Japan

ISBN978-4-88596-008-6 C0030

ヨーロッパ科学芸術アカデミーとSGI



宗教と寛容

寛容は「グローバル化時代に必要な徳」	55
資本主義という新宗教	58
「寛容憲章」と「SGI憲章」	61
「寛容の精神」の定義	65
一神教は非寛容か?	68
「他者を悪魔化する」危険	72
宗教と「寛容の危機」	75
世界宗教のもつ「寛容の伝統」	80
宗教と権力	83
「科学的思考」との調和が不可欠	89
「形式的な寛容」と「内実ある寛容」	94
「暴力と憎悪の連鎖」を断ちきるもの	96
「自由の像」とともに「責任の像」を	100

仏教の慈悲とキリスト教の愛

「慈悲の本義」

113

菩薩は「積極的寛容」を実践

117

「生老病死」を見つめる人間

121

慈悲と愛が「生」を輝かせる

125

個人と社会を「癒す」宗教

127

ヨーロッパのトラウマ——ファシズムとスターリニズム

129

人々の記憶を消し去る全体主義

132

統一へ向かうヨーロッパ

133

カレルギー伯爵の構想

136

ヨーロッパ理念の柱「自由」

138

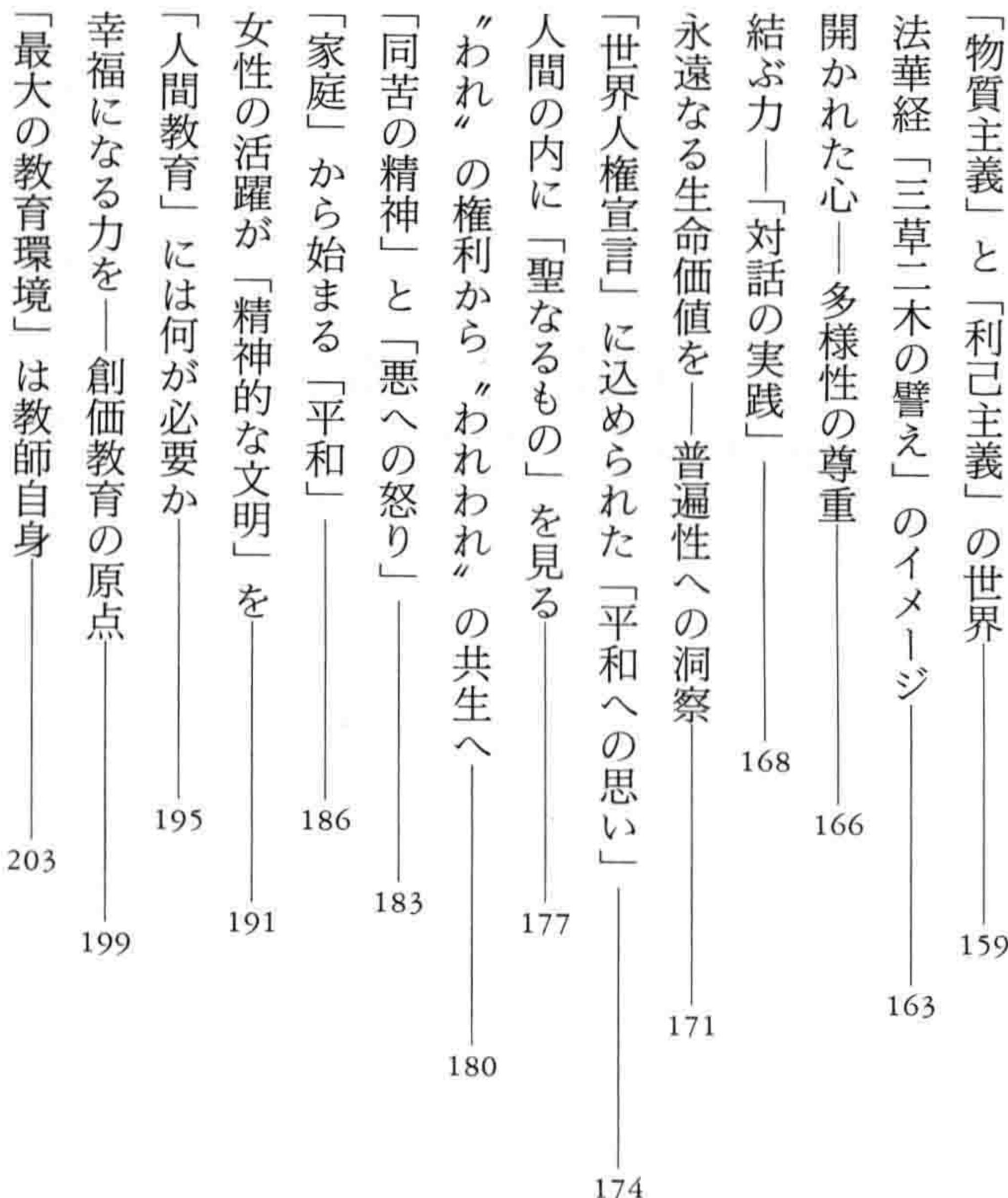
ベルリンの壁の崩壊とヨーロッパの再興

140

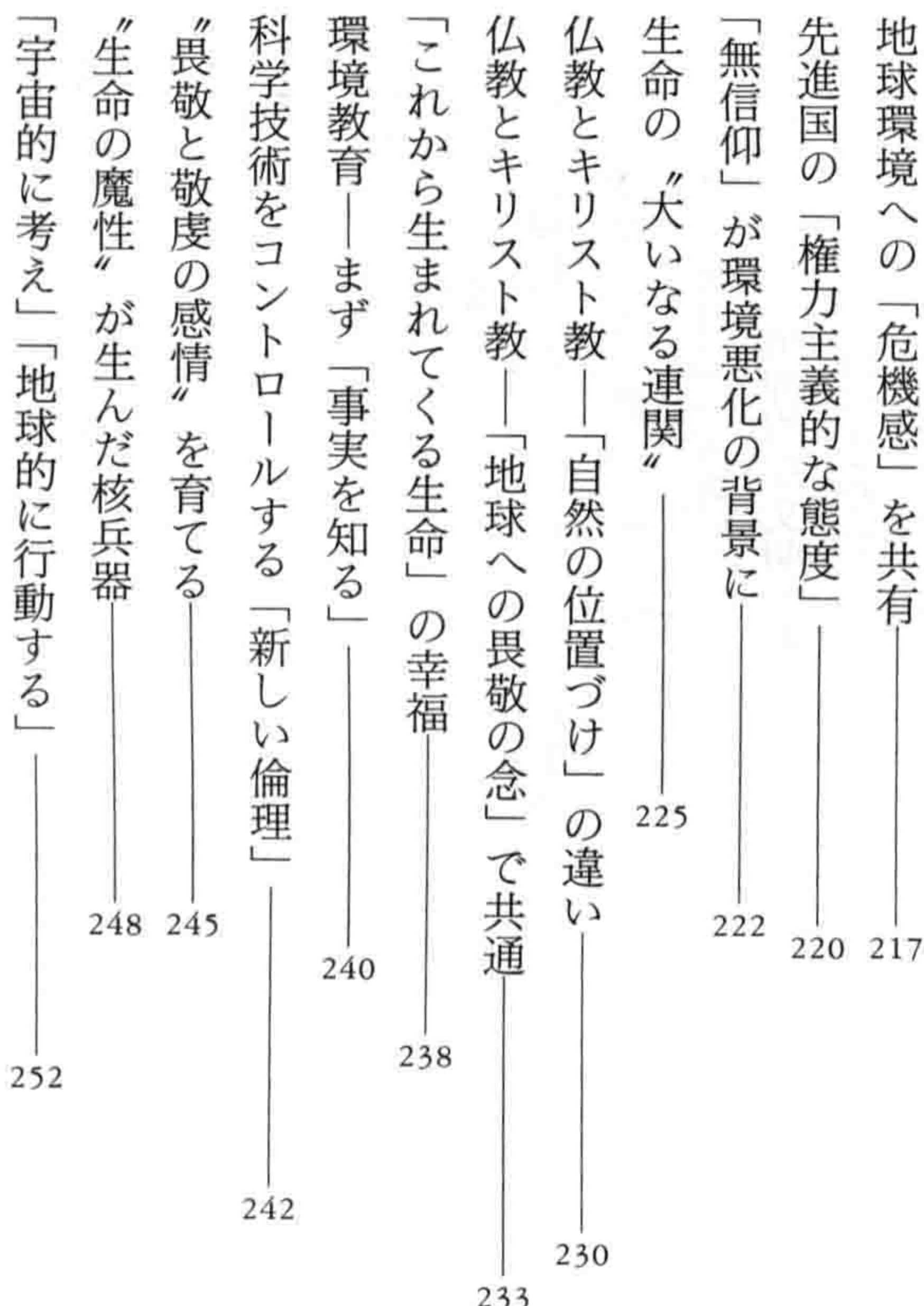
表現の自由に限界はあるか

144

「平和の文化」の創出に向けて



地球環境問題と教育



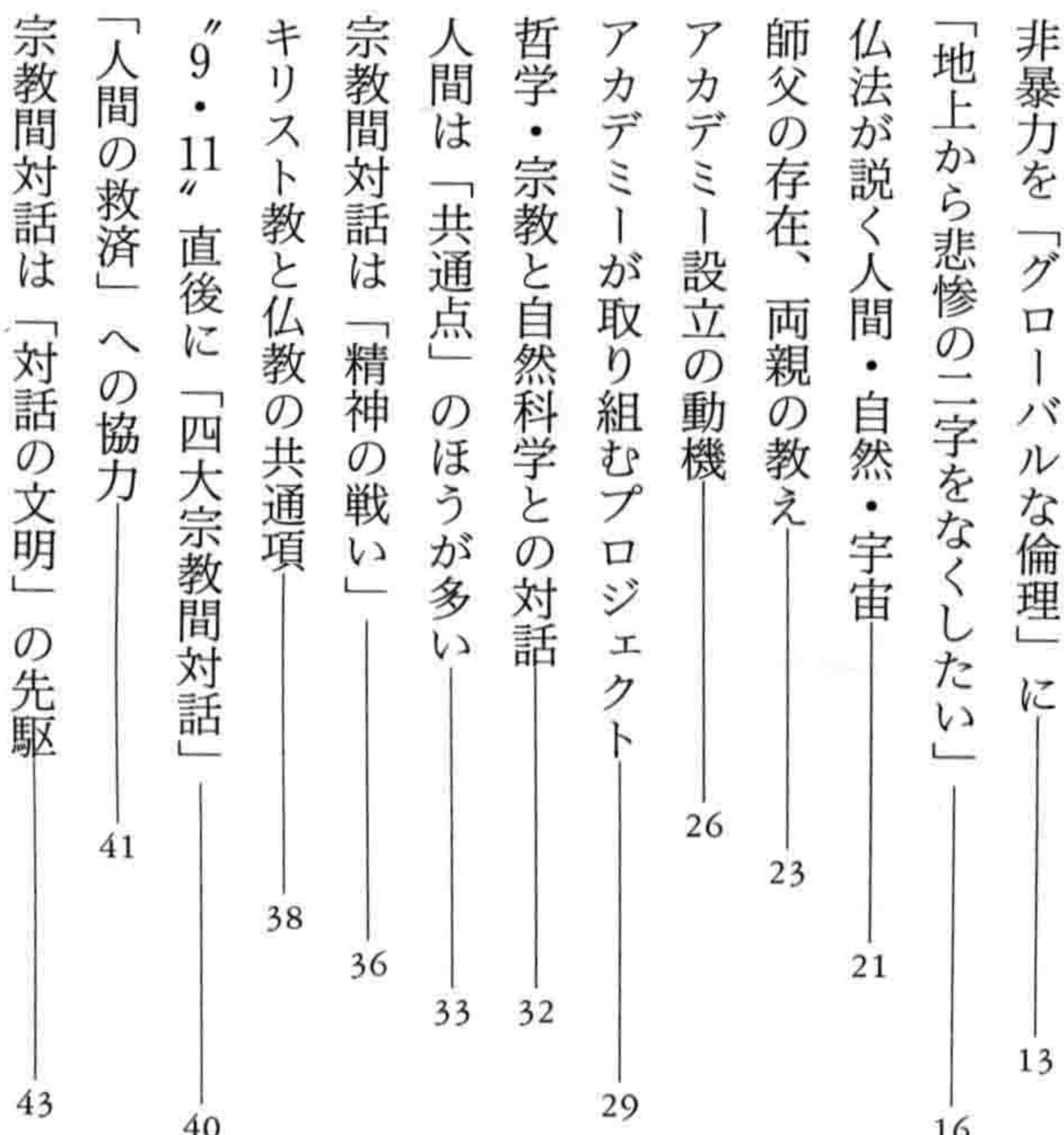
健康・医学・生命倫理

「自分自身が自分の医師に」	269
人間は何歳まで生きられるか	274
心臓病を防ぐには	271
「生命の起源と進化」に新しい光	280
遺伝子技術——恩恵と危険	282
生殖医療と胚の利用	286
脳死・臓器移植の諸問題	289
「積極的安楽死」をめぐつて	294
臨死体験が意味するもの	296
「生命の永遠性」	298
医療倫理——医師のあるべき姿とは	302
「患者の自己決定権」が拡大	306
医療事故を防ぐために	309

人間主義の旗を——
寛容・慈悲・対話

〔目次〕

ヨーロッパ科学芸術アカデミーとSGI



宗教と寛容

寛容は「グローバル化時代に必要な徳」	55
資本主義という新宗教	58
「寛容憲章」と「SGI憲章」	61
「寛容の精神」の定義	65
一神教は非寛容か?	68
「他者を悪魔化する」危険	72
宗教と「寛容の危機」	75
世界宗教のもつ「寛容の伝統」	80
宗教と権力	83
「科学的思考」との調和が不可欠	89
「形式的な寛容」と「内実ある寛容」	94
「暴力と憎悪の連鎖」を断ちきるもの	96
「自由の像」とともに「責任の像」を	100

仏教の慈悲とキリスト教の愛

「慈悲の本義」

113

菩薩は「積極的寛容」を実践

117

「生老病死」を見つめる人間

121

慈悲と愛が「生」を輝かせる

125

個人と社会を「癒す」宗教

127

ヨーロッパのトラウマ——ファシズムとスターリニズム

129

人々の記憶を消し去る全体主義

132

統一へ向かうヨーロッパ

133

カレルギー伯爵の構想

136

ヨーロッパ理念の柱「自由」

138

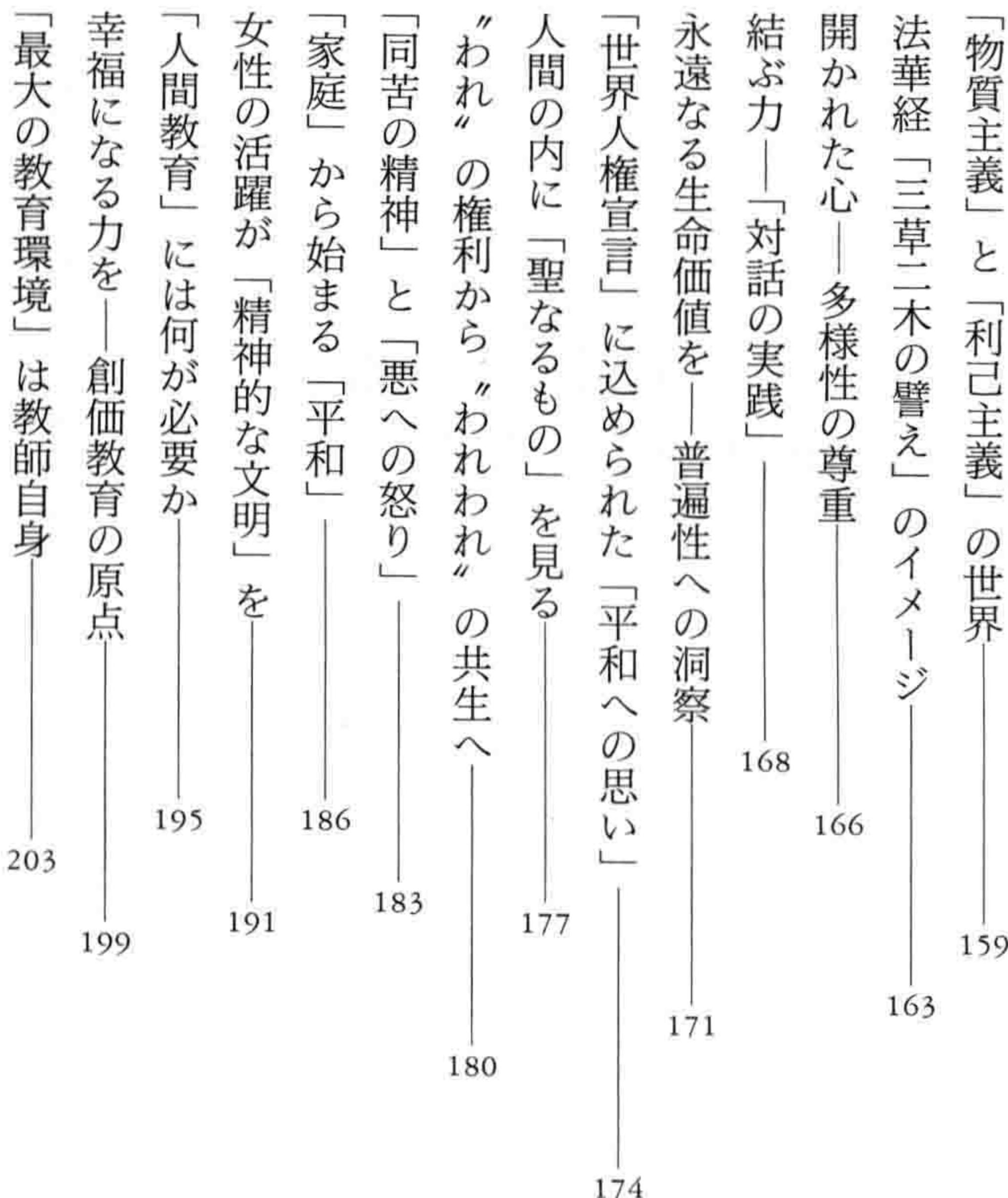
ベルリンの壁の崩壊とヨーロッパの再興

140

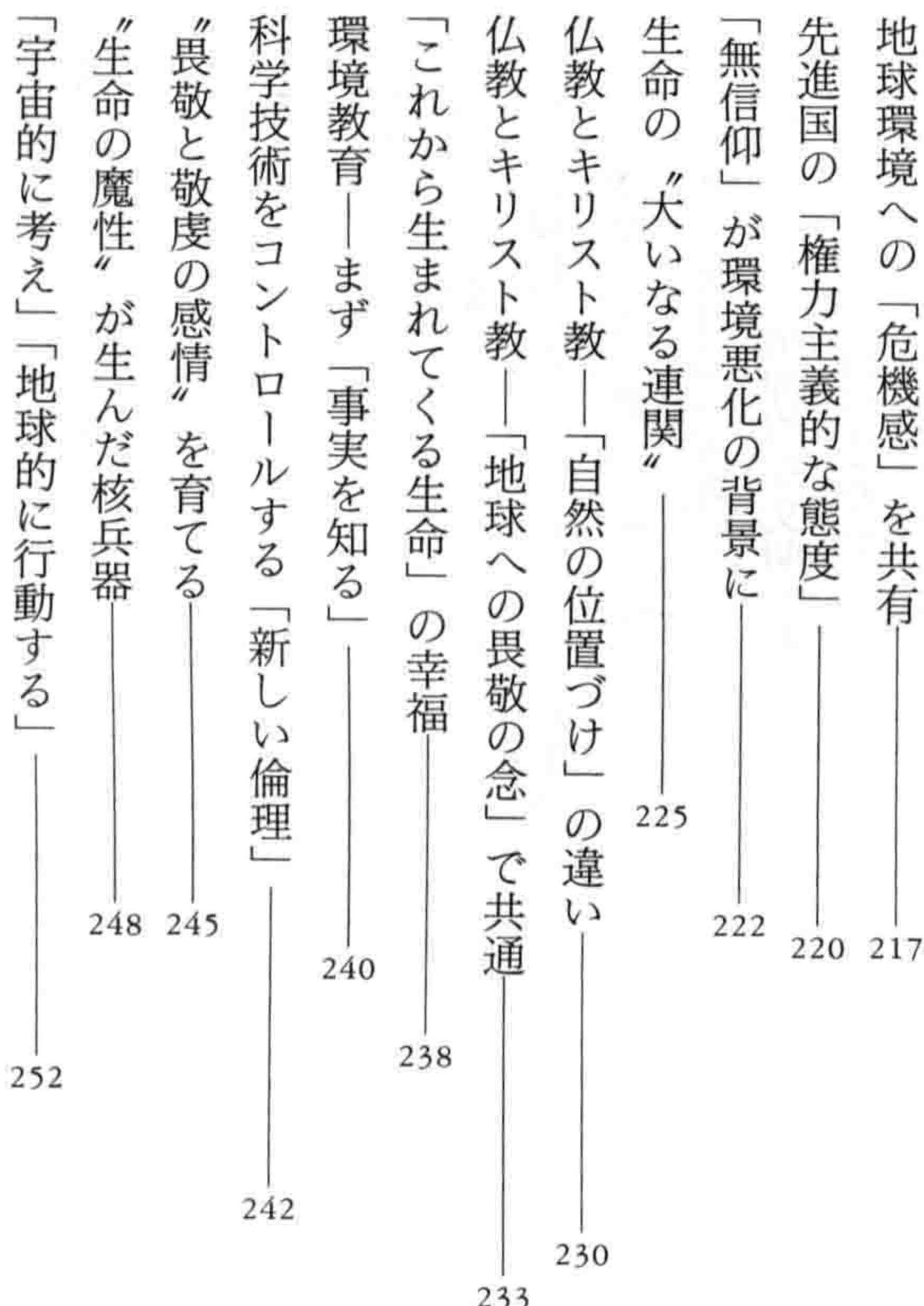
表現の自由に限界はあるか

144

「平和の文化」の創出に向けて



地球環境問題と教育



健康・医学・生命倫理

「自分自身が自分の医師に」	269
人間は何歳まで生きられるか	274
心臓病を防ぐには	271
「生命の起源と進化」に新しい光	280
遺伝子技術——恩恵と危険	282
生殖医療と胚の利用	286
脳死・臓器移植の諸問題	289
「積極的安楽死」をめぐつて	294
臨死体験が意味するもの	296
「生命の永遠性」	298
医療倫理——医師のあるべき姿とは	302
「患者の自己決定権」が拡大	306
医療事故を防ぐために	309

池田大作（いけだ だいさく）

一九二八年、東京生まれ。創価学会名誉会長。創価学会インタナショナル（SGI）会長。東洋哲学研究所創立者。創価大学、アメリカ創価大学、創価学園等の教育機関、民主音楽協会、東京富士美術館等の文化機関、戸田記念国際平和研究所、ボストン二十一世紀センター等の学術・平和機関を設立。

『人間革命』（全十二巻）『新・人間革命』（連載中）『私の世界交友録』『私の人間学』など著作多数。また世界各国の識者・指導者と対話を重ね、『二十一世紀への対話』（A・トインビー）、『二十世紀の精神の教訓』（M・S・ゴルバチヨフ）、『インドの精神——仏教とヒンズー教』（ベッド・P・ナンダ）など四十点以上の対談集が発刊されている。

モスクワ大学、グラスゴー大学、北京大学等、世界の大学・学術機関から二百をこえる名誉博士・名譽教授等の称号を受けている。

